



平成24年 5月15日

8面	7面	6面	5面	4面	3面	2面
視点・声・ペンペン草	こどもの詩・俳句・短歌	ひと・すぼっと	市町村対抗駅伝大会	青年の家だより	みんなで仲良く	尺八を吹こう!!
					組織構成	公民館事業スタート



まつかわ百景 ⑥1

「花のじゅうたん」 (大沢北部)

大沢北部、橋場政男さん宅の芝桜です。
5年ほど前から作り始めた色とりどりの芝桜。
果樹園の跡地を埋めつくす光景は圧巻です。

松川中央小学校に着任し、今年からお世話になります校長の原彰彦と申します。よろしくお願ひします。昔、5年ほどこの学校でお世話になりました。

「校長先生お客様がお見えです」と事務の先生が伝えてくれました。入ってきたのは、昔と変わらぬ、少し照れを押さえ、人なつっこい笑みを浮かべたM君でした。

「先生、ご無沙汰しています。こちらに來られたと聞きまして、早速館報に原稿をお願ひに來ました」と依頼されました。

先日、火災を想定しての避難訓練が中央小学校で行われました。580人の児童が、放送を合図に一齐に校庭に避難してきました。話し声は一切聞こえません。先生方がてきぱきと人員点呼をしています。

子どもたちは、安座をし、じっと待っています。見事です。4月5日に入学した1年生は、もうすっかりと小学校の一員として口を閉じて頑張っています。

学校目標「よく学び・よく遊び・よく働き、思いやりのある子」正によく学んでいる

主張

地域をあげて

子どもたちの成長を願う

姿の一つです。自然なあいさつもよくできる子どもたちでもあります。このような子どもたちの姿を見ていると、松川町が行政も地域住民も保護者もみんなで子どもたちを育て上げようとしている雰囲気、ひしひしと伝わってきます。先ほどの1年生の姿も保育園からの積み重ねの成果と思っています。

M君から「先生、小学校のとき、いいことはい、悪いことは悪い、いけないことはいけないと叱ってくれた。やるべきことはやらされた。今、自分は感謝しています」と社交辞令をいただきました。松川町には、子どもたちを温かくたくましく育てようとする環境が、地域意識として根付いてきているように感じます。

学校で元氣よく学び、学力をつけるために、子どもたちの体調の管理、生活の躰を家庭で頑張っていたら、地域が連携してゆったり見守っていた、たくさんで、松川の子どもが、少々の困難は平気で乗り越えられる「生きる力」を身につけて成長してくれるのではないかと期待しています。

松川中央小学校校長 原 彰彦

松川中央小学校に着任し、今年からお世話になります校長の原彰彦と申します。よろしくお願ひします。昔、5年ほどこの学校でお世話になりました。

「校長先生お客様がお見えです」と事務の先生が伝えてくれました。入ってきたのは、昔と変わらぬ、少し照れを押さえ、人なつっこい笑みを浮かべたM君でした。

「先生、ご無沙汰しています。こちらに來られたと聞きまして、早速館報に原稿をお願ひに來ました」と依頼されました。

先日、火災を想定しての避難訓練が中央小学校で行われました。580人の児童が、放送を合図に一齐に校庭に避難してきました。話し声は一切聞こえません。先生方がてきぱきと人員点呼をしています。

子どもたちは、安座をし、じっと待っています。見事です。4月5日に入学した1年生は、もうすっかりと小学校の一員として口を閉じて頑張っています。

学校目標「よく学び・よく遊び・よく働き、思いやりのある子」正によく学んでいる



公民館活動で 地域に^{ともしび}燈火をともしよう 〈平成24年度公民館事業スタート〉

地域に根ざした

活動を目指して

社会部長 湯澤秀樹

本館3部中心に進めてきた公民館研究集会は、今年度第50回という節目の年を迎えます。第48回から3年かけて取り組んできたテーマ「まちづくりと公民館」のまとめの年にもなります。これまでに集いで出された地域の課題や公民館の現状をよく整理して、これからの公民館活動の展開の仕方について地域の方々と一緒に話し合い考えることができればと思っています。

また、社会部の活動として、今年度もあいさつ運動に力をいれて取り組んでいきたいと思えます。地区公民館や役場青年部、社会教育委員会等様々な団体の方々に引き続きご協力いただきながら、大人から子どもまでが自然とあいさつ出来る地域を目指します。この他にも、人形劇場、音楽祭、映画会などの文化事業へ取り組んだり、松川高校との連携事業等若い世代の人たちとの交流も深めてまいりたいと考えています。

本年度、新たに1名の新入部員を迎え、これまで以上に

積極的に活動をしていきたいと思えますので、関係団体、地域の皆様のご理解とご協力をお願い致します。



昨年度の公民館研究集会

スポーツを通じて 健康で明るい松川町に

体育部長 神田康憲

新年度を迎え、平成24年度の公民館事業がスタートしました。

本館体育部では年間6回ほどの事業を計画し、スポーツの普及、また定着を目指して進めて参ります。事業内容は軽スポーツを通じて体力増進やお互いの親睦を図るなど目的はさまざまですが、子どもから大人までどなたでも楽しめる内容を検討していきたいと考えています。

また、体育部のメイン事業

である駅伝大会については例年60チーム近い参加をいただき開催していますが、本年度も安全確保には十分努め、引き続き実施して参ります。参加チームの関係者や各団体、また様々なかたちで関係される皆様方には本年もご協力のほどよろしくお願い致します。

さて、本年体育部としての取り組みの中で新たな試みがひとつあります。多くのスポーツを紹介、体験するだけでなく、公民館などにも多く設置されている「AED」を正しく扱えるよう普通救命講習を受けることにしました。スポーツを十分に楽しむには健康であつてこそですが、万一の事があつた場合の対応を学び、皆さんが安心して各事業に参加いただけるよう努めていきます。町民の皆さん、健康管理とコミュニケーションの場としてぜひ体育部事業に参加してみましよう。スポーツを通じて楽しい世界を体感できるはずです。

未来に残る紙面作り

編集部長 大東洋文

編集部として発行する公民館報は、記録と情報発信とい

う2つの側面を持っています。長い歴史を持つ公民館報ですが、その時々々の旬な話題を特集として取り上げる事で、歴史を振り返った時にその時代を写す記録となります。

今年度、編集部として公民館報を発行するにあたり特集ページに力を入れていきたいと思えます。主に、2、3面を使い、公民館活動を取り上げて特集ページとして情報を提供していますが、更に一歩踏み込み、地域活動を取り上げ幅広い視点で情報をお伝えしていければと考えています。

伝統ある公民館報だからこそ同じ紙面を作るといふ事は、マンネリ化と紙一重な部分もありますが、変わらず情報を発信し続けるという事は、常に発行する側が情報の変化に対応しなければ、同じ紙面を作り続ける事はできません。

伝統は「守る」ものではなく「作る」という意識の元に、今年度も、様々な行事、情報を提供していきたいと考えております。取材、原稿の依頼と様々な形で、町民の皆様にお願する事もあるかと思いますが、ご協力をよろしくお願致します。

気軽にはじめられる 仲間募集

日本伝統楽器尺八を吹こう!!



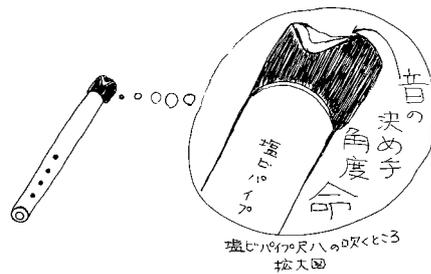
小原さん(下垣外北部)は師範の腕前♪

塩ビパイプが
尺八に!!

時代劇や民謡と様々な場面で目にする尺八。興味はあるけれど楽器は高いイメージがあるし、始めたのは、いいけれど途中で挫折してしまったりもつたいない…。そんな方に朗報です。

下垣外北部にお住まいの、都山流尺八師範の小原捷次さんの手作りの尺八は、ホームセンターの材料で作るため価格は、なんと300円弱。塩ビパイプの表に4つ、裏に1つ穴を開けたシンプルな作りですが、初めて尺八を体験した編集部員も5分ほどで音が出るようになりました。尺八と聞

くと、なかなか体験できないイメージですが、この塩ビパイプ尺八は、尺八を体験するには最適です。



型にはまらない
やさしい師範

小原さんが尺八に出会ったのは30年程前。同僚の転勤の

際、上司が竹の尺八で「北国の春」を演奏したのを聴き、自身のDNAに響いたそうです。

小原さん自身も転勤する中、尺八の魅力にひかれ、師匠に1年半習ったり、東京へ出向いた際には、尺八づくりの教室へ通ったりと、独学で尺八の腕前を磨いてこられました。

長野の地では仲間と定期演奏会を開催したり最近ではコーラスとお琴と尺八での合奏と幅広く活動されています。月に一度東京の先生に指導を受け、研鑽に余念がありません。

演奏する
喜びを共に

尺八の魅力は、何と云っても、深みのある音色ですが、5つの穴で、あごの角度、指の開閉、息の強さで、29の音が出せるそうです。腹式呼吸で肺活量も鍛えられ、指先を使うため、脳の活性化にもなります。

「演奏で人を感動させるのは、プロでないとできないけれど、自分で吹いて音が出た時や、仲間と一緒に曲を演奏する喜びを感じる事ができる」と小原さんはおっしゃっています。



5分ほどで音が!!

した。日本伝統の楽器だからこそ余計にその音色に日本人のDNAが反応し、共鳴するのかもしれない。尺八に触れてみたい、一度吹いてみたいと思う方は、是非気軽にはじめられる塩ビパイプ尺八からはじめてみては、いかがでしょうか。

お問い合わせ先

小原捷次さん(下垣外北部)

TEL 36-6631

又は

中央公民館

TEL 36-2622

●中央小にはたくさんの仲間がいて、そこに北小、東小、その他の小学校から来た人が集まって、松川中学校の一年生になりました。私は、他の小学校出身の人たちと仲良くできることが楽しみでした。今ではたくさんの人と仲良く慣れてうれしいです。やっぱり友達が多い方が楽しいです。

新しい友達

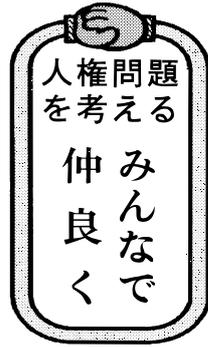
中学1年生

●入学した時は本当にこのクラスの人たちと友達になれるかとても心配でした。しかし、話しかけてみるとすぐにうちとけることができました。この新しい友達をこれからも大切にしていきたいです。

●中学に入ってたくさんの友達ができた。たくさん友達がいた方が心強い。友達ができるとクラスのムードが、信頼関係が良くなる。困ったことがあっても助けてくれるから。まずは、自分から話しかけて一歩ずつ友達に近づきたい。

●中一になる直前の春休みは「新しく友達ができるか」と

でも不安でした。入学式の日には、緊張して教室に入りました。どの人も無言で暗い空気でした。入学式終了から始業式までの間に休む時間があつたので、隣にいた子に話しかけてみました。その子は転校してきたばかりと言っていて、私よりもっと不安なんだと思いました。次の日から少しずつ友達が増えてきて、ほっとしました。



●中学に入ったら知らない人がたくさんいました。教室にも知らない人が結構いました。でも、何日か経つと話しかけられるようになり、知らなかった人からも声をかけられるようになりうれしかったです。私にとって友達は大切な存在です。

●友達ってクラスで「友達」とは何かを考えました。

友達とは、困っている時に助けてくれたり、相談ののつ

てくれたり、一緒に笑ったり、泣いたり、怒ったり、自分がダメなことをしている時にとめてくれたりする、とても大切な存在。

自分の事も人の事も考えてくれる。時には、支えてくれて、時には楽しませてくれる。注意もしてくれる。いじめをしないのも友達。感謝の気持ちを伝える人も友達。ぼくは、いつでも助け合えるので友達を目指したい。

わたしにとつての友達とは、優しく親切であると同時に、ダメなことはダメだと言ってくれ、うれしい・楽しいといった感情を共有できる大切な存在。

友達とは頼れる人。頼れる時もあればケンカをしてしまうこともある。相談をしたり、話をしたり、話を聞いてもらったり、聞いてあげたりできる存在。辛い時も、悲しい時も、いつも一緒にいる人。



生涯教育のメッカ

松川青年の家だより

その八

虫の声を聞く会

夏の暑さも峠を越え、林を通り過ぎる風に涼しさを感じるようになると、松川青年の家の周りの草原では虫たちのにぎやかなコーラスが聞かれるようになります。虫はよく鳴くことやコオロギなど名前は知っていますが、実際に鳴いている姿を見たり鳴き声にじっと耳を傾けたりしたことはほとんどありません。そこで、9月10日に「秋の虫観察会」という講座を開催し、地域の皆さんに秋の虫を観察していただきました。

当日は近隣の市町村から虫好きの子どもや親子連れ、ご夫婦などが集まり、講師の小林正明先生(飯田女子短大教授)からご指導をいただきながら熱心な観察会が始まりました。虫の声を聞くことを目的に開いた会なので、参加者の皆さんには午後4時に集まっていたいただきました。最初は先生から秋の虫のお話をお聞きしました。その中で話された帰化昆虫「アオマツムシ」は明治末期に外国から入ってきて、今では伊那谷で

も都市部や人里のサクラの木でうるさい程よく鳴くようになったというお話は印象的でした。

お話が済み、いよいよ虫の観察会。明るいうちは網を使っている



いるな虫を捕まえては先生から名前や特徴について教えていただきました。日が沈むと、どこからともなく「ルルルル：」と柔らかいつやのある声が続いてきました。みんなその声のほうに忍び足で近づき、注意深く覗き込んでみました。「いました。」大きなクズの葉の陰で羽を一生懸命震わせている小さな虫が懐中電灯の光に映し出されたのです。「カントン」です。体全体を使って一生懸命鳴くその姿はとても神秘的で、参加された方々の心に深く焼き付けられたことでした。ほかに短い声でなくスズの仲間や「ツツツサセ」と聞こえるツツツサセコオロギの声も十分堪能することができました。こうして、日頃あまり気にとめなかつた虫の声を聞きながら、秋の夜を楽しみました。

町の部の連覇

第22回長野県市町村対抗駅伝競走大会

第22回長野県市町村対抗駅伝競走大会が4月30日(月)に松本市で行われました。一般の部では見事町の部6連覇を達成しました。

なお、昨年は42.195km(9区間)でしたが、今年は38.545km(8区間)に変更されました。

総合 9位
町の部 優勝

記録 2時間7分14秒
〈個人成績〉

1区(2.7 km)	山岸 鈴加	9分34秒
2区(3.1 km)	松下 湧登	10分05秒
3区(5.8 km)	松下 拓磨	18分41秒
4区(6.2 km)	遠藤 千有	19分57秒
5区(3.1 km)	熊谷 美佑	10分50秒
6区(5.8 km)	小池 隼人	20分03秒
7区(6.2 km)	松山 克敏	19分33秒
8区(5.645 km)		

米山 祐貴 18分31秒
小池監督のコメント

春の風物詩と言える恒例の長野県市町村対抗駅伝に参加させていただき、町の部では念願の6連覇を達成する事が出来ました。

この大会は22回の歴史を誇る大会ですが、過去先輩方がチームを組み、役場・公民館、そして町民の皆様の応援でここまで来る事が出来ました。

特に生田の松山克敏君の活躍はチーム連覇の原動力で、彼が町に帰って来てくれた年から連覇が始まり、長野県縦断駅伝でも重要区間を任される彼に後半の重要区間(7区)をお願いしました。

一時は3位に転落した所を冷静な走りで追い上げ、町の部1位でアンカーに繋いでくれました。

中高生、大学生も来年の連覇に向けて頑張つて欲しいと思います。今後とも町民の皆様様の応援よろしく願いいたします。

第8回長野県市町村対抗小学生駅伝競走大会



一般チームの皆さん

同日、第8回長野県市町村対抗小学生駅伝競走大会が松本平広域公園陸上競技場で行われました。

6kmを1.5kmずつの4区間に分けて競われました。

松川町の結果は次の通りです。

総合 14位
町の部 5位

記録 22分17秒
出場選手

1区 熊谷 茉里 (中央小5年)
2区 北沢 智哉 (中央小6年)
3区 原 彩花 (北小6年)



小学生チームの皆さん

4区 古田 楓 (中央小6年)

選手たちの声

1区 熊谷茉里さん
緊張したけれど、走つて楽しかった。

2区 北沢智哉くん
くいのないように走れた。

3区 原 彩花さん
疲れたけれど楽しかった。もう1回でてみたい。

4区 古田 楓くん
練習は短くきつかったが、結果はよかった。くいはちよつと残つた。

関監督のコメント

今年は練習時間が少なかつたので心配だったが、目標タイムに沿つた結果となり子どもたちはすごいと思つた。来年はぜひ表彰台にたつてもらいたいと思う。

こども短縄跳び講習会のご案内

少年少女体操・スポーツ総合クラブでは、こども短縄跳び講習会の参加者を募集します。

1、日時 5月27日(日)
午前8時〜11時30分

2、会場 松川北小学校 体育館

3、募集人員 先着20名(大人の参観は人数制限ありません)

4、参加費 こども1人:150円

5、申込締切 5月24日(木)

申込・お問い合わせ先 少年少女体操・スポーツ総合クラブ

代表 川又一郎

電話:36-5728

携帯:090-4460-5728





町図書館にニューフェイス

鹿嶋 裕子さん

春の日だまりのようにふんわり温かな感じ。今回のひと鹿嶋裕子さんから伝わってきたイメージです。



休館日の水曜日、休みでも蔵書の整理にお忙しいなかお話をうかがいました。メガネの似合うかわいらしいお嬢さんといった印象の鹿嶋さんですが2人のお子さんがいらっしやるそうで、しばらくのあいだ子育て談義に花がさき

ました。 「当時は本町つていえば、村の中でも強豪だったんですよ。」とうれしそうに語る、北原さん。

…ましたが、本来の目的に軌道修正。 松川町生田出身の鹿嶋さんは結婚されて駒ヶ根市へ。子育てが一段落ついたところで小学校図書館の司書などをされ、縁あって松川町図書館へ来てくださいました。 本が大好き、とおっしゃる鹿嶋さんと本の虫が騒ぎ始めた私のあいだで読書談義が始まり、取材というより少人数の女子会風で楽しいお話を聞きできました。 「平日の開館時間が午後6時までになった図書館にぜひ立ち寄りください」（鹿嶋裕子さんより）

新井本町の会所を自治会のみなさんで片付けていたところ、押入れの中からまだ大島村といわれていた頃のさまざまなスポーツ大会で獲得した、142枚もの優勝旗とたくさんの賞状と大会旗が出てきたそうです。 これは町の歴史において尊いものだと考えた本町の北原千尋さん、優勝旗は年代別で一覧にし、賞状はファイルに入れ、大会旗は町に返還しま

すぽと

大島村野球大会旗 会所の押入れから…

今回、大会旗を拝見しましたが、約60年前のものということでした。今と比べると娯楽の少ない時代、きつと、家族や近所総出で大いに盛り上がったのでしょね。



こころの詩

草ですいません
〜雑草の気持ち〜
北小6年 馬場 敦
草ですいません
そんなにじゃまですいません。

草ですいません。
そんなにじゃまですいません。
草ですいません。
そんなにじゃまですいません。
草ですいません。
そんなにじゃまですいません。

早くくだもの旬に
ならないかな
北小6年 松下未夢
私の家をでるとそこは
畑に囲まれた道
いつでも花や
くだものが見ほうだい。
その花や
くだものを見ると
心がおちつくんだ。
学校帰りで疲れていても
少しだけ疲れがとれる、
旬のころになると
おいしそうな実をつけて、
すぐになくなっていく。
少しさみしい気もするけど
食べ物だから
しょうがないかかって思う。
今年も早く
旬の季節にならないかな。

俳句

若葉風 岩崎久子(名子中部)

夕づきて石焼の笛春浅し
妻の座の厨にすさむ虎落笛
遠来の客を迎へり桜狩り
山小屋に轉りふりくる目覚かな
子の宿へ若葉風乗せ車発つ

短歌

山桜 山上博子(名子中部)

松のもと厳冬に絶えて数多なる
クリスマスローズ健気に咲きいる
残雪を被ける山並背にしたる谷は
弥生の陽に温もれり
中央道沿線の山芽吹く中
存在しめす山桜の花
桜漬け待ちいる人等の顔浮かべ
七分に咲きし花を摘みいる
南限と北限の草木繁茂して
社叢は緑の影寄せ合えり

声

東日本にとどけ



彫刻を手がけられた方で、東京の二科展にも出品されています。

昨年、二科展のテーマを構想している時期に大震災が発生しました。繰り返し報道される惨状を見る中、

5月15日、彫刻家大場敏弘さんが中心となり、東日本の被災地宮城県気仙沼市へ彫刻を寄贈する事になりました。

大場さんは、新井商店街の

瓦礫の荒野にぼつんと立つ「羅漢かかし」の姿が浮かびました。それから約3ヶ月、割って切って砕いて：作品が生まれました。

まちの石仏 ⑭ 「二十三夜塔」(原田)



傘付きの二十三夜塔。略して「三夜塔」とも呼ばれる。



二科展出品後、大勢の方に見ていただき共感や励ましをいただいたが、はたして誰を励ますべきなのか：誰をいやすべきなのかと疑問が浮かんできました。ある日かかしにふと目をやると、朝日を浴びながら「俺を被災地へ連れて行け」と、つぶやいているように感じた大場さん。普段から親しくされている寺の住職に相談したところ、被災地で

クマノエゾのなむらじ

上町 宮下和子

さくらの開花が待ちどおしい4月7日。

片桐神社の春季祭典で、獅子囃子、長持ち、片桐三自治会(中荒町、町谷、上町)の女性による踊りが奉納され、私達上町女性部はスコップ三味線を奉納しました。

各自が持ちよったスコップを三味線に見立てて抱え、バチ代わりの台所用品(杵抜き、お玉、マツシヤ、肉たたきなど)で演歌に合わせて叩きます。インターネットで動画配信されているスコップ三味線。日本での全国大会や世界大会レベルには遠く及びませんが全員が血のしむような



は、仏像を多数失っており彫が心を痛め挫折しそうになった人々の抛り所になればと考えました。そして様々な方面の協力を得て、受け入れてくれる被災地が決まり、寄贈となりました。

被災地から遠く離れた松川町から、様々な意味で東日本大震災の記憶をとどめる一つの手段としてエールを送りたいとのことでした。

今では見なくなった姉さん被りの手拭いとヤツケ姿で果樹用コンテナに座り、皆さんの手拍子を後押しに華麗なバチさばきを見ていただくことができました。

2022年

先日イタリアに行ってきました。有名な美術品を見る事が目的でしたが、多くの人との「出会い」がより一層思い出深い旅にしてくれました。

今回のツアーメンバーは私を含め14名と少人数ですが、家族連れや新婚旅行の夫婦、70代の夫婦と年齢は様々。ですが初めて会ったとは思えないくらいに意気投合し、家族のように楽しく過ごすことができました。添乗員さんもおもしろく仕事に一生懸命な方で、帰りの空港でびっしり綴られた旅行記をいただき感動。

旅行中、エレベーターが故障し閉じ込められるというハプニングにも遭遇。一緒にエレベーターに乗っていた現地の方が助けを呼んでくれ、不安な気持ちでいっぱい私の励ましてくれました。他にも地下鉄で迷っている人と親切に声をかけてくれる方など、そういった方々のおかげで本当に楽しい旅行になりました。

今回の旅行で多くの人との関わり合いでより豊かな旅行になると確信しました。リフレッシュできたので、新たな気持ちで明日から頑張ろう。

(巻井美幸)

公民館報
「まつかわ」
第 583 号
平成24年5月15日

発行所 松川町公民館 登
責任者 矢澤 編集部
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)